

看 護

1 学習指導と評価の改善・充実

高齢化の進展と疾病構造の変化に伴い、患者のクオリティ・オブ・ライフ（生活と人生の質）を重視した在宅医療、及び看護に対する社会的要請が増大している。そのため、看護者には、ますます高度化する現代の医療に対応できる知識と技術が求められるとともに、様々な対象者一人一人に合った安全で確実な看護が提供できるよう、看護者自身がいろいろな場面において、自ら考え創意工夫をしながら、的確に援助できる知識と技術を身に付けることが一層重要となってきた。

そこで、教科「看護」の学習指導においては、5年一貫看護師養成課程を踏まえ、生徒が看護師国家資格を取得できるよう、実践的・体験的な指導や問題解決的な指導を工夫し、効果的な学習形態を取り入れることなどが求められている。また、総合的・系統的な指導内容の計画を作成し、目標に準拠した観点別評価の一層の充実を図るとともに、単に知識や技能の量のみではなく、思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲などいわゆる「確かな学力」の状況について適切に把握し、評価することが大切である。さらに、評価の結果を受けてその後の指導を改善・充実させるといった学習指導と評価の一体化を進める取組が必要である。

2 「確かな学力」を育成する観点別評価の改善・充実

～指導と評価の一体化を進める取組～

(1) 評価計画表の作成

昨年度の本手引を参考に、評価計画表の作成を行う。

ア 作成上の留意点

(ア) 観点別評価規準については、学習指導要領に示された各科目の目標及び内容などから、内容のまとまりごとや単元ごとに作成するとともに、単元における「学習活動における具体の評価規準」（次頁、評価計画表の例 部分）には、目標に到達すべき生徒の学習状況や姿を具体的に表現することで、無理なく評価できるよう工夫する。

(イ) 評価方法については、これまで、ペーパーテストによる【知識・理解】の評価や学期末などの特定の時期での評価に重点が置かれる傾向があったことなどの課題を踏まえ、様々な評価方法の中から生徒の学習の状況を的確に把握できる方法を選択することや、評価の時期を工夫したり、学習の過程における評価を一層重視する。また、指導の改善を図る上で有効である生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を評価計画表に明記することも大切である。

(ウ) 各学校においては、評価の信頼性を高めるために、評価規準、評価方法について、実践の経験やその成果を踏まえながら絶えず指導方法の改善に伴う評価規準の見直しを行うことが大切である。また、評価に関する情報の共有や交換により、評価を行う教員の判断を共通のものにしていくことや、評価に関する情報を生徒や保護者に対して適切に提供していくことも重要である。

イ 評価計画表の例

科目名 (履修学年・単位数)	基礎看護 (1学年・5単位)			
単元名	(2)日常生活と看護 イ 食事			
単元の目標	1 人間にとっての食事の意味を幅広く考えさせ、食事に影響を及ぼす心身の状態や環境条件等について理解させる。 2 病人の状態に応じて、安全と安楽に配慮した食事の援助を行うための知識と技術を習得させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容の まとめごとの 評価規準 (「基礎看護」の内容 内容(2)日常生活と看護 の中項目イ「食事」 の評価規準である。)	食事と健康との関連について関心を持ち、自ら健康的な日常生活を目指すとともに、食事の援助技術の習得に意欲的に取り組む、実践的な態度を身に付けている。	食事に影響を及ぼす因子と援助の必要性について科学的に思考を深め、対象の状態に応じた援助方法を判断し、創意工夫することができる。	食事に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた援助を行うことができる。	食事に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食事の意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。
評価規準の 具体例 (中項目イ「食事」 の評価規準の具体例 である。)	・食事と健康との関連について関心を持っている。 ・自己の日常生活を振り返り、課題を見付け、健康的な生活を目指して改善しようとしている。 ・対象の状態に応じた食事の援助技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	・食事に影響を及ぼす因子と援助の必要性について科学的に思考を深め、対象の状態に応じた援助の方法を創意工夫することができる。 ・安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じた食事の援助の方法を判断し創意工夫することができる。	・食事の援助に関する技術の科学的根拠や原則を踏まえ、安全と安楽に配慮した援助を行うことができる。 ・食事の援助に関する技術の科学的根拠や原則を踏まえ、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた援助を行うことができる。	・食事における生理的メカニズムと影響を及ぼす因子に関する知識を身に付けている。 ・食事と健康障害とのかわりとその障害に応じた援助について理解している。 ・食事の意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。 ・援助の方法の原理・原則を科学的に理解している。
指導項目・指導内容	学習形態	観点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
食事の意義 (2時間) 自らの食生活を振り返り、食事の意義を理解させるとともに、関心を持って食生活の課題を改善しようとする態度を育成する。 食事における身体反応及び嚥下のメカニズムについて理解させる。 栄養についての基礎的・基本的知識を理解させる。	グループワーク 講義	関心意欲態度	食事の意義と食事に関する身体反応に興味関心を持って参加している。 自分たちの食習慣や健康を保持・増進するために必要な食習慣に関心を持ち、自らの生活を改善しようとしている。	ワークシート 観察 単元テスト
		思考判断	評価基準を設定しない	
		技能表現	評価基準を設定しない	
		知識理解	食事の意義と食事に関する身体反応のメカニズムを理解している。 栄養についての基礎的・基本的知識を理解している。	ワークシート 小テスト 単元テスト
食事に影響を及ぼす因子 (2時間) 食事に影響を及ぼす心身の状態や環境条件について理解させる。 食事に影響を及ぼす因子を捉えさせ対象の状態に応じた援助法を考えさせる。	グループワーク	関心意欲態度	グループワークに積極的に参加し、自分の意見や考えを述べている。	ワークシート 観察
		思考判断	食事に影響を及ぼす因子について科学的に思考を深め、対象の状態に応じた援助の方法を創意工夫することができる。	ワークシート レポート 単元テスト
		技能表現	評価基準を設定しない	
		知識理解	食事に影響を及ぼす因子に関する知識を身に付けている。	ワークシート
食事の援助と看護者の役割 (4時間) 食生活の基本的援助法及び観察点を理解させる。 食事介助の技術を身に付けさせる。 嚥下障害の成因を理解させ、その援助法を考えさせる。 《校内実習終了時には、自己評価・相互評価を行う。》	講義 校内実習	関心意欲態度	対象の状態に応じた食事の援助技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	観察 実習日誌
		思考判断	安全と安楽に配慮し対象の状態に応じた食事の援助の方法を判断し創意工夫することができる。 その援助の方法を工夫することができる。	実技テスト 実習日誌 単元テスト
		技能表現	食事の援助に関する技術の科学的根拠や原則を踏まえ、対象の状態に応じ安全と安楽に配慮した援助を行う事ができる。 食事摂取後の結果を正確に記録し報告することができる。	実技テスト 実習日誌 単元テスト
		知識理解	食事の援助の方法における原理・原則を科学的に理解している。 嚥下障害の成因と援助の方法を理解している。	単元テスト
非経口栄養法 (4時間) 経腸・経静脈・経鼻栄養法について理解させる。 経鼻栄養法の技術を、身に付けさせる。	講義 校内実習	関心意欲態度	校内実習において非経口栄養法の技術を身に付けようとする意欲的に取り組んでいる。	観察
		思考判断	非経口栄養法についての科学的な思考を深め、対象の状態に応じた援助の方法を判断し創意工夫することができる。	ワークシート 実習日誌
		技能表現	非経口栄養法に関する技術の科学的根拠や原則を踏まえ、安全に配慮した援助を行うことができる。	実技テスト
		知識理解	非経口栄養法の援助における原理・原則を科学的に理解している。	ワークシート 小テスト

注：評価方法については、特に重要であると考えられるものを挙げた。単元テストについては、学習指導要領の目標に応じて、その学習の到達度を客観的に評価するために、各観点のバランスを考慮し設定したものである。

(2) 観点別評価の進め方

ア ペーパーテストによる評価

(7) 単元テストによる評価方法の具体例

これまでのペーパーテストは、主に【知識・理解】を評価する方法として利用されてきたが、これからは、各観点を踏まえた評価規準と結び付いた内容（問題）とし、知識や理解のみに偏ったものとならないよう工夫することが大切である。

次頁に示す単元テストは、点数による評価ではなく、4観点別に評価を行うことを目的として問題を作成したものである。

単元テストの評価規準については、いくつ正答すれば、「おおむね満足できると判断される」状況(B)、あるいは「十分満足できると判断できる」状況(A)、「努力を要すると判断される」状況(C)などと設定しておくとともに、記述問題については、キーワードや同じ意味の文言が使われていれば正答とするなどの弾力的な判断をして評価することが大切である。また、問題により生徒の解答に質的な高まりや深まりが見られるとき、どのように評価するのかをあらかじめ決めておくことも必要であり、単元テストの各問題ごとの評価規準と評価(例)を、次に示した。

なお、この単元テストにおいては、生徒の動機付けを目的として採点を行うが、その合計点の扱いについては、他の小テストや実技テストの点数を合計してテスト全体の評価として総括するのではなく、単元や学期のまとめりに他の評価方法(ワークシートや実習日誌の記述等)で得た観点別評価と併せて総括する。

その他の評価方法である「行動観察」「ワークシート」「実技テスト」による具体例については、昨年度の本手引を参考とすること。

(1) 単元テストの各問題ごとの評価規準と評価(例)

問題	学習活動における具体的評価規準 (目標に到達すべき生徒の姿)	生徒の解答から評価を区分した例			
		評価B	評価A	評価C	
1	【関心・意欲・態度】 自分たちの食習慣や健康を保持・増進するために必要な食習慣に関心を持ち、自らの生活を改善しようとしている。	設問1	3つ以上正答	すべて正答	2つ以下正答
		設問2	1つだけ正答	すべて正答	正答がない
		設問3	正答の4つの記述がある。	正答の4つの記述があり具体的栄養・食生活分野の目標数値等の記述がある。	正答の4つの記述がない。
2	【知識・理解】 食事の意義と食事に関する身体反応のメカニズムを理解している。 嚥下障害の成因と援助の方法を理解している。	6つ以上の正答	8つ以上の正答	5つ以下の正答	
3	【技能・表現】 食事の援助に関する技術の科学的根拠や原則を踏まえ、対象の状態に応じ、安全と安楽に配慮した援助を行う事ができる。	2つ以上の正答	すべての正答	1つだけの正答	
4	【技能・表現】 食事摂取後の結果を正確に記録し報告することができる。	2つ以上の正答	すべての正答	1つだけの正答	
5	【思考・判断】 食事に影響を及ぼす因子について科学的に思考を深め、対象の状態に応じた援助の方法を創意工夫することができる。 安全安楽に配慮し対象の状態に応じた食事の援助の方法を判断し創意工夫することができる。	3つ以上の正答	すべての正答	2つ以下の正答	

(ウ) 科目「基礎看護」単元テスト [食事] の問題 (例)

基礎看護 単元テスト [食事]

問題 1 次の文を読み設問に答えなさい。【関心・意欲・態度】

食生活状況の調査によれば、朝食の()率が上昇し、外食率や食事を一人で摂る人の割合も上昇している。これらは、注意しないと、()摂取の過剰、()摂取不足、インスタント食品摂取の増加といった、偏った食生活に結びつきがちである。

()時間が不規則な人や、菓子や清涼飲料を食事代わりにする人も増加しているといわれる。食習慣の乱れにより肥満の増加が問題になっている一方で、高齢者や若い女性では、()の割合が大きい。これらが生活習慣病を発症させる要因になっている。

設問 1 ~ に適語を入れなさい。

設問 2 下線について具体的疾患名を2つあげなさい。

設問 3 食生活状況の調査から、正しい食習慣に向けて改善すべきことを4つあげなさい。

問題 2 嚥下障害のある場合の食事の介助について、()に適語を入れよ。【知識・理解】

口腔内で咀嚼されて砕かれた食塊は咽頭、食道を経て()に送り込まれる。この嚥下は、1相()・2相()・3相()の3つの段階に区分でき、複雑な共同運動によって行なわれている。嚥下の機能に障害をきたすと、食塊だけでなく水分や唾液が口腔内にとどまったり、誤って()に流れ込んでしまう危険性があり、()性肺炎を引き起こすおそれがある。

そのため食事介助には、食物が通過しやすい()を整え、飲み込むことに意識を集中できるように落ち着いた雰囲気の中で患者のペースに伴せて介助する。患者の状態にあった一口量を舌の()に乗せ、状況に応じて、食物に()をつけたり、ゼリー状にしたり工夫する。むせたり咳をするなど、患者の変化を見落とさないように観察する。必要時、()などを準備する。

問題 3 ~ の状況に対する援助の方法をA～Dの語群より選び組み合わせなさい。【技能・表現】

利き手が欠損している。
咀嚼力が低下している。
経口的に食事がとれない。
麻痺があり握力が低下している。

A、管を用いて直接栄養物を胃に送る。
B、ご飯をおにぎりにする。
C、お粥や副食をきざみ食にする。
D、スプーンの柄を太くする。

問題 4 患者の食事摂取後の記録について、記録すべき観察事項を4つあげなさい。【技能・表現】

問題 5 次の事例に対して ~ の食事の援助を行なった。その根拠を説明しなさい。【思考・判断】

88歳、男性、脳梗塞後遺症のため左半身麻痺があり床上生活を送っている。座位バランスが安定せず起きあがり動作に介助を要する。嚥下機能に障害はなく、現在、食事介助が必要であるが自力でなるべく摂取できるよう訓練をすすめている。床上生活が長く続いたため、最近、時間や場所が分からなくなる時がある。また、昨日の胃カメラ検査でストレス性胃炎が発見された。食事は常食(きざみ食)を食べている。

食事をするとき患者の上半身を挙上させた。
患者の左側にバスタオルや枕をいれた。
食事の最初に汁物を摂取させた。
看護師が患者の右側に位置し食事介助をおこなった。
咀嚼中になるべく話しかけないようにした。

(I) 生徒の解答例と評価の実際

次頁に生徒の解答例を記載し、評価の実際を示した。解答欄に×がついているものは誤答であり、それ以外は正答である。また、1～4については生徒の記述解答を弾力的に判断したもの、波線の部分は質的な高まりや深まりが見られた解答例である。

〔生徒解答例〕 衛生看護科 1年 組 番 氏名 _____

		86点		
問題 1 【関心・意欲・態度】				
設問 1	パン食 ×	脂肪	カルシウム 1	
設問 2	糖尿病	高血圧症		
設問 3	規則正しく食べること。 できるだけ多くの食材を使った食事をとること。 塩分の取りすぎに注意する。高血圧予防のため食塩摂取量は1日10g未満にする。 良く噛んで食べて消化を助ける。			
		各 2 点	各 5 点	
		各 4 点		
問題 2 【知識・理解】				
	胃	口相	咽頭相	
	誤嚥	体位	前部	
			胃相 ×	
			咽頭 吸引器	
		各 2 点		
問題 3 【技能・表現】				
	D ×	C	A	
			B ×	
		各 4 点		
問題 4 【技能・表現】				
病院食の種類、摂取量、食事の所要時間、吐き気				
		各 2 点		
問題 5 【思考・判断】				
	上半身を挙上しないで寝たまま食べると、食物が気管に入り窒息するから。			
	左側にバスタオルや枕をいれることで身体の安定を図ることができるから。			
	患者の年齢やきざみ食を食べていることから消化・吸収能力が低下している。最初に汁物を摂取させることにより、口腔内や咽頭、食道内を潤して食物の通過をやすくしたり、唾液や胃液の分泌を促し食物の消化や・吸収を助けたりすることができるから。			
	患者の顔をよく見れて安心できるから、それと看護師が介助しやすいから。			
	咀嚼中に話しかけると、その話しかけに応じようとして早く嚥下したり咀嚼も不十分となり、食物が気管に入りやすく誤嚥の原因となるから。ボケの状態があるから。			
		各 4 点		
(単元テストによる評価)				
問題	観 点	各評価	評価	教師からのコメント
1	関心・意欲・態度	A	A	よく頑張って勉強していますね。 この調子で日常生活における援助の方法を身に付けていきましょう。 対象の状態に応じた食事の援助の方法については再確認しておいてください。
2	知識・理解	A		
3	技能・表現	B		
4	技能・表現	A		
5	思考・判断	A		

イ 生徒による自己評価と生徒同士による相互評価

生徒による自己評価を教師の評価の総括に含めることはしなくてよいが、自己評価を行うことで生徒自身の学習目標が明確になり、学習への動機付けへつなげることができる。また、教師が生徒による自己評価の結果を確認することにより、個々の生徒の学習状況を的確に把握したり、教師の評価との相違点などからその生徒の課題を見付け出したりして、指導改善を行う資料とすることができる。さらに、自己評価と併せて生徒同士の相互評価を行わせることにより、生徒が客観的に評価できる目を養う機会とすることや、自己の学習の到達度の確認や課題を見付けることが可能となる。

次頁に「食事の援助と看護者の役割」の自己評価票の例を示す。これは、2人一組の実習で役割の違う両者が互いに評価できるとともに、自己評価票と相互評価票とを兼用できるよう、自己評価の上から赤ペンで書くという工夫をした形式である。しかし、自己評価の結果に惑わされたり、互いに遠慮して的確な評価ができないという欠点があるため、その場合は自己評価票と相互評価票をそれぞれに用意して行う方法などが考えられる。

食事の援助と看護者の役割 自己評価票(相互評価票)

1年___組___番 氏名_____

校内実習について、次の4つの項目について、自己評価をしてみましょう。
患者さん役の人からの評価は赤ペンなどでわかるよう記入してもらいましょう。

患者さんの状態に応じた援助技術を身に付けようと努力しましたか？

食事の援助の方法の根拠が理解できましたか？
嚥下障害の原因と援助の方法を理解しましたか？

自分の取組の中で、特に注意を払ったことは何ですか。

自分の評価と患者さん役の評価を比較して感じたことを書いて下さい。

患者さんの状況に併せて援助の方法を考え、工夫しましたか？嚥下障害の原因を考え、援助の方法を工夫しましたか？

食事の援助の基本をおさえた安全な援助ができましたか？

4 (一番外側) 「とてもよくできた」
 3 「ある程度できた」
 2 「あまりできなかった」
 1 (内側) 「全くできなかった」

は自己評価を行う項目である
は相互評価を行う項目である

(3) 観点別評価の総括

単元の観点別評価の総括を行う方法としては、学習活動における具体的評価規準に照らして、学習活動における各評価規準ごとに A、B、C の3段階で評価を行い、単元が終了した段階で観点ごとに A、B、C の判定を行う。総括の方法として A、B、C の個数や割合に基づく方法や A、B、C を数値に換算して集計する方法が考えられる。ここでは数値に換算して集計する方法について表1に例示する。

具体的な実施方法は各評価場面で得られた評価を、A～3点、B～2点、C～1点と置き換え点数化して平均点を出し、表2の「観点別評価の分割点の例」に照らし合わせて評価を行う。

なお、本事例では評価の重み付けを行っていないが、科目や単元の内容及び評価の重要度に応じて、ある観点における評価を2倍にするなどの工夫も必要である。

表1 単元の総括の具体例

生徒氏名	観 点	食 事					単 元 平 均 点 数	単元の 評 価
		食事の意義	食事に影響を及ぼす因子	食事の援助と看護者の役割	非経口栄養法	単 元 テ ス ト		
	関心・意欲・態度	A B	B A	A A	A	A	2.8	A
	思考・判断	/	B A	B A	A A	A	2.7	A
	技能・表現	/	/	B B	A	B A	2.4	B
	知識・理解	B B	A B	A	B B	A	2.4	B

注 平均点数は少数第2位を四捨五入した。

表2 観点別評価の分割点の例

2.5	<	A
2.0		B
	<	C

評定への総括の具体的な方法については、昨年度の本手引の124ページを参考とすること。